

産業と社会にイノベーションをもたらす 『テレワークの展望と課題』について

第55号 ごあいさつ

9月議会一般質問は、

① 本市の産業と社会にイノベーションをもたらす『テレワークの展望と課題』

② 開館まで1年? 『まちなか図書館(仮称)まちなか広場(仮称)の課題』

③ 開館12年? 『こども未来館「ここにこ」の課題』

今急がれる、3つの大きな課題を議論しました。

また今後、まちなか図書館、こども未来館などを活用場のテレワークの普及が、豊橋にとっての大きなチャンスなると捉えて議論しましたので、TIMES 55号はテレワーク中心に編集致しました。

※③開館12年『こども未来館「ここにこ」の課題』については「とよはし市議会だより No.326」に一部抜粋が掲載されます。



なぜ今テレワークが求められるのか 【伊藤とくや質問の意図】

- テレワークは、一億総活躍社会や働き方改革のなかで、女性や高齢者や障害者の就業機会を創出するツールとして、またワーク・ライフ・バランス改善のツールとしても位置づけられています。
- が、これ以外にも多様な効果があります。
- その一つが、今回のパンデミックや震災などの有事の際に、企業や働く人の安全な事業継続を確保するツールとしての側面です。
- このようにテレワークは、社会、企業経営、働く人それぞれに多様な効果が期待できます。
- 政府の統計では、これまでに約20%の企業がテレワークを導入しており、今回、初めて導入を進めている企業が多いとのこと。
- その背景には、地方創生や働き方改革の機運の高まりがあり、効果としては、**産業と社会にイノベーションをもたらすことが期待されており本市にとっても大きなチャンス**であると思われま。
- そのためにはテレワークという働き方が定着した時の社会についての、本市の展望と、課題への認識と克服・解決が不可欠です。

テレワークの導入効果への認識と課題について 【企画部長】

- 現在、第6次総合計画の策定作業を進める中で、地方創生に資するまちづくり戦略として、コロナ禍による新たな生活様式の実践に向けたテレワーク等の普及について様々な検討を進めています。
- テレワークの普及は職住近接の概念にとらわれることなく、ライフスタイルの幅を広げることとなり、本市など**地方都市にとっては人口増加に結び付く契機となる導入効果**が期待されます。
- また、**子育て世代には育児と仕事の両立**にもつながります。
- テレワーク普及については、感染症の蔓延によって急激にその需要が高まることとなりましたが、インフラ環境や雇用形態など様々な障害が課題です。

本市のテレワーク普及への認識と課題について 【伊藤とくや質問の意図】

- 企業がテレワークを導入するには、社内制度とともに様々な情報通信技術の整備が不可欠と言われています。
- 大企業は自前で構築することもできますが、従業員の少ない中小企業では、IT企業が提供するクラウドサービスを利用する方が安価で簡便とも言われています。
- 本市のテレワーク社会構築には中小企業への支援が不可欠です。
- コンサルティング、テレワークのエキスパートを派遣する仕組みも求められます。
- また上手く使うには、テレワークの2つ働き方の理解が不可欠です。
- 1つは、オフィスでの仕事と同じように、同僚たちと同じ時間を、同じ場所にいるかのように働く「**同期型テレワーク**」です。
- もう1つは、働き手の好きな時間に働く「**非同期型テレワーク**」です。
- 企画書や報告書をまとめる作業に適しており、この働き方は自由な働き方が可能であり、介護や子育てと並行しながら働くことも可能です。
- 在宅勤務は家族がいて、集中できる時間が限られる、また孤独を感じるなどの声があります。またテレワークは、自宅だけが働く場所ではありません。
- 物理的な距離を一定保ちながらも、人々がつながることで、社会活動やコミュニティ活動を維持していくことが求められています。

【企画部長】

- 2020年5月末に公益財団法人日本生産性本部が行った「コロナ禍収束後もテレワークを行いたい」というアンケートでは**6割以上**の人が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えたという結果が出ており、さらなる導入が進んでいくものと推察されます。
- こうした中、テレワークの普及を一層図っていくためには市としても**ロールモデルを示し実践していく必要がある**ものと考えております。
- そこで、この8月には南部窓口センターの2階をお試しサテライトオフィスとして開放するなど、市内企業の新たな働き方の後押しをしているところです。
- **若者や女性の移住定住促進、人口増加対策**を今後一層推し進めていくためには、**子育て世代が気軽に利用することのできるコワーキングスペース、パブリックワークプレイスの実施**についても勉強を進めてまいりたいと考えています。

目標と効果を定めたテレワーク戦略について、現在の延長線上に想定される未来ではなく、バックキャスト思考における望ましい10年後を描いての本市の未来の姿「テレワークの将来像」について【質問の意図】

■ご答弁のように、テレワークの推進は本市における若者や女性の移住定住促進につながり、産業と社会にイノベーションをもたらすことが見込めます。
 ■そのためには、人口動態、環境制約、技術革新など、メガトレンドを踏まえて、検討範囲、テーマ、目標年度等「予定表・計画」を設定し、できるだけ具体的に魅力的な未来像を描く必要があります。
 ■その際には、豊かな想像力は必要ですが、空想や幻想にはならないよう注意が必要です。
 ■「現在」における課題と可能性の洗い出しを進めねばなりません。
 ■テレワークの普及を目指し、今月から本市はロールモデルの取り組みを始めたこととです。
 ■一層の普及拡大を目指すには、市内企業の後押しとなる市内のクラウドサービスの育成や、ご答弁にもありました**ロールモデルの拡大**が必要です。
 例えば、

🌿「まちなか図書館」をコワーキングスペース、パブリックワークプレイスとする【図書館/ライブラリー-テレワーク】

🌿「まちなか広場」「まちなかストリート」「まちなか公園」をパブリックワークプレイスとする【オープンテレワーク】

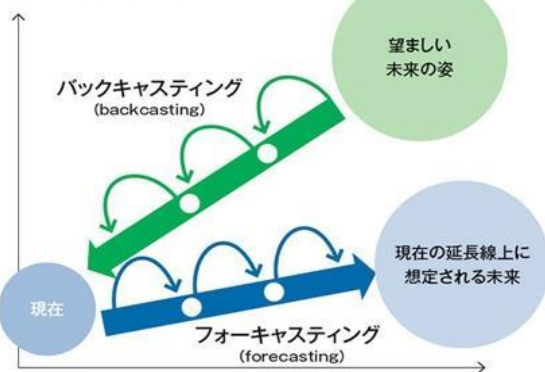
🌿「こども未来館」をパブリックワークプレイスとする【子育てテレワーク】

など、目的と効果が解りやすいと思われます。
 ■ロールモデルと同時に、今後取り組むべき、システム、価値観、技術といった行動の項目を拾い出し、望ましい未来像の実現に向けて、現在の課題と可能性を踏まえ、必要な行動項目を多数挙げ、時間軸へ配置していくことが求められます。
 ■その際の本市のポイントは、本市の6次総の政策立案理念でもある**「未来」を起点として、そこから逆算して「今」何をすべきかを考えるバックキャスト思考で「望ましい未来像」を明確に描いてのPDCA**です。

【企画部長】

- 現状のテレワークは、オフィスでの業務をテレワークで代替しているに留まっていますが、今後は働き方の本質そのものが問われる時代になります。
- 現在、リモートでは考えられないような仕事についても、リモートでの従事が当たり前になることが、テレワークの普及に求められるニューノーマルな考え方だと思います。
- こうしたテレワークが前提となる社会では、新たな働き方による東京一極集中の是正や兼業の普及など、本市がまちづくり戦略で重点施策としている若者や女性の活躍推進にとって、大きな可能性を秘めていると期待しています。
- そのため、望ましい10年後の社会のあり方を踏まえ、その実現に向けて、今、何が求められているかを、まずは実証実験などにより検証してまいりたいと思います。

図1.バックキャスト



あとがきの2点に通じる注目すべきひとつの手法に、「バックキャスト」思考というものがあります。

この手法は、「未来」を起点として、そこから逆算して「今」何をすべきかを考えることです。

これと対をなすのが、「フォアキャスト」思考で、この手法は、「今」を起点とする思考です。

『まちなか図書館(仮称)まちなか広場(仮称)の課題』【質問の意図】

- 本事業は、地域差はあるものの、公共施設の利用者が減少し、施設機能の低下が懸念される、人口減少や少子高齢化が進行する中で進められる事業です。
- また財政面でも、人口減少の進行による税収の減、コロナ後の景気後退が心配される中での事業です。
- 加えて、まちなか図書館、まちなか広場は、計画当初では想定外であった、新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」が求められます。
- 本事業は「知と交流の創造拠点」を理念とし、多様な交流と連携による中心市街地の活性化を掲げていることから、「新しい生活様式」に相応しい公共事業であるのかの説明責任が求められます。
- 公共事業の意義である
 - 自立した個人の生き生きとした暮らしの実現
 - 競争力のある経済社会の維持・発展
 - 安全の確保
 - 美しく良好な環境の保全と創造
 - 多様な地域形成の形成、に照らすとともに、
 - 事業効率について、何を指標とするのか？
 - 波及的影響をどうとらえるのか？
- 貸出し本数、来館数が事業の評価に結び付かないとも思えることから納得のいく評価が求められます。
- ① まちなか図書館、まちなか広場のコロナ禍における事業進捗について
- ② コロナ時代も含めた人口減少時代におけるまちなか図書館、まちなか広場の意義と(政策・施設)評価について
- ③ 本市は向こう10年間の将来展望となる基本構想、基本計画を策定中だが、新しい生活様式が求められる中で『「にぎわい」と「みどり」にあふれた、まちなか拠点の再生』をコンセプトとし、『まち歩きのコア』・『緑にあふれたオアシス空間』を広場の整備方針とする「まちなか図書館」「まちなか広場」の10年後を見据えた運営の方針や考え方を、バックキャスト手法伺います。次号へ

コロナ禍で変わる社会の中で、開館12年を迎えるこども未来館「ここにこ」の諸課題への認識と対応について【質問の意図】

- 新型コロナウイルスの感染拡大によって、様々なイベントが中止されています。「ここにこ」も例外ではありません。
- 「ここにこ」は利用者数を評価指標としていますが、
- ① 評価指標である開館からコロナ禍における近時までの利用者数について
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策と利用の実態について
- コロナ禍が社会変え、「まちなか図書館」「まちなか広場」が竣工する中で、こども未来館「ここにこ」は、開館12年を迎えます。
- 世代をつなぎ、まちをつなぎ、時代をつなぎ、「ひと」「まち」「みらい」の創造空間としてのリフレッシュ、少なくとも、ひと磨きかけるブラッシュアップが必要です。
- と同時に、本格的な人口減少時代を迎えた中でも選ばれるまち豊橋の玄関口の顔として、本事業を継続する上での説明責任が求められています。
- 存在の意義、価値を再確認するとともに、
 - 公共事業として、時代のニーズに合っているのか？
 - 使い勝手は良いのか？
 - 老朽化、陳腐化はしていないか？
 - 来年開館が予定されている、まちなか図書館と未来館の図書コーナーとの、お互いの特徴を引き出しての棲み分は出来るのか？
 - メディア工房の利用が少ないことなどへの課題解決は図れるのか？
 - 大規模イベントが開催できない今こそ取り組むべき、有料の体験発見プラザのリニューアルに取り組むのか？考えるときは今です。
- ③ 開館から12年が経過する中での課題の認識と対応について
- ④ 本市は向こう10年間の将来展望となる基本構想、基本計画を策定中だが、新しい生活様式が求められる中あたり、未来館の10年後を見据えた運営の方針や考え方、指標をバックキャスト手法で伺います。次号へ

あとがき「従来の延長」とは別の軸に立った指標を打ち出すには、何を足掛かりに考えればよいのか。それがSDGsです。不透明で不確実な未来を見据え、この新たな選択肢を準備するために、SDGsは一つの有効な指標となり得るもので、豊橋市はSDGsを積極的に政策に反映させ成功しつつある過程にあります。SDGsを市政の次なる選択肢のためのイノベーションの駆動装置として活用するためには、以下2点が必要です。

- ① SDGsに対する正しい理解を深め、生きた能力・知識を獲得すること
- ② SDGsを実践に落とし込むスキルを獲得すること

市政報告会のお知らせ

日付 令和2年10月28日(水)
 時間 18時30分より
 会場 カリオンビルにて
 (松葉町2丁目)
 お気軽にお越しください!

発行

伊藤とくや事務所
 豊橋市松葉町3-70
 ☎090-3855-9696
 FAX:
 0532-53-4557
 bbito@me.com